

---

# 三人揃えば平気なの？

f j 野

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

三人揃えば平氣なの？

### 【Zコード】

Z2867BA

### 【作者名】

f\_j野

### 【あらすじ】

とある馬鹿な三人が  
Fate/Zeroの世界觀を  
爆発させません。嘘だけど

自己紹介

立花 春日

(タチバナ カスガ)

15歳の女の子。

180近い身長なのが  
かなりの傷になつていて  
一目見て男子と言われると  
タックルを食らわせて来る  
んだけれど、それが凄い  
破壊力なんだよ。

ショートに一房だけ長い  
髪の毛がね  
トレードマークだよ。

秋葉 夏

(アキバ ナツ)

15歳の女の子。

155で身長が止まって  
カルシウムと寝言で  
言つほど傷を負つて  
チビつて言うと田潰しを  
するよ、威力が高いよ。  
ショートカットに前髪を

上げないと貞子と  
呼ばれるよ

奏光  
(カナデ ヒカリ)

15歳の女の子だよ。  
160の身長に不満を  
抱く腹黒な子だよ  
ボニー・テールを王道と  
ツインテールを邪道と  
謎な定理を持つ  
眼鏡ちゃんだよ。  
怒ると般若様が降臨するよ  
とても怖いよ

んにゃ、三人は  
オリジナルで作りました。  
頑張った。  
ギャグが高いかも。  
余談に三人は  
同じ高校だよ。

冬木市にある遠坂邸  
そこには、居候である  
三人の馬鹿がいた  
もう、誰にも止められない  
馬鹿、馬鹿が！

「聖敗戦争つてなんだぬ、  
はなはな？」

今、はなはなこと立花春日に  
お馬鹿なクエスチョンを  
出したのは秋葉 夏。  
学校でも担任を恼ます馬鹿  
である。

「戦争つて重火器ばんばん  
勝ち抜き大会やろ、光？」

御丁寧とは言いがたいが  
今、夏に返答をしたのは  
春日である。  
かなり怖い返答が  
返ってきた。

彼女は、自分を馬鹿とは  
認めないお馬鹿様である。

「違う、聖杯、聖杯。

願望機と呼ばれてて、

聖杯の導きにより

令呪を貰つた魔術師による

死闘。

たつた一人の願いしか  
叶えないケチ機械。」

聖敗を聖杯と直し、

願望機と説明したのは良い  
だが、その願望機とケチと  
彼女が最後のお馬鹿様。  
無自覚馬鹿である。

一番質が悪いのである。

言つ。

「へー、それを魔術師が  
競うんだぬ！ぬはははーい」

やつと理解したらしい。

「でさ、話は変わつてさ  
なんでぐるんぐるん  
してるん？」

「言峰綺礼つて人可哀想」

「親父どもに困まれて  
ぬははははは！」

三人は、二階の柵から

見下ろしていた

その頃下では

あの馬鹿達

頭を抱える遠坂家、当主の時臣。

「凄い人達ですね。」

真顔で聞く言峰綺礼が  
いた。

(ぬはは！話終わったかぬ)(時田一・賀、暇、暇)(滑稽だつたぞ、馬鹿田。)(君達は、何がしたいの)(((時田弄りー。)))

(弟子ではなれりうですね)

## 02 召喚

ついに遠坂邸で召喚の儀式が行われた。

時臣に届いたのは

蛇の脱皮の化石

「 来れ、天秤の守り手よ」  
時臣の声がドア越しに  
聞こえる。

「 儀式始まつたぬん。」

「 なんのサー・ヴァントが  
来るんやろか?」

「 アサシンは、綺礼だもんね」

皆で想像中

: : :

「 夏は、ランサーだぬん

「 ウチは、アーチャーやな

「 私は、キャスター」

皆違う回答。

「皿はどうしてそれを選んだんだ？」

「そこにあつた魔導書を引き千切つて何がいいか丁度良い場所にペンがあつたから田を隠して選んだぬーん」

「私は、馬鹿田の性格を考えに考え抜き、娘を桜ちゃんを売つた奴なら此れが来ると」

「へえ、そうなん。  
私は、なんかそんな感じがしたからやなあ」

「君達。何時の間にそんなことをしてたの。」

「「「あ、おかえり馬鹿田」」」

「君達。もっとましな歓迎の仕方はないの?  
そして夏、光は後でたつぶりと説教だ」

召喚も終わつたのであつ  
時臣が召喚していた

部屋から出ていた。

「つるせんじよ、馬鹿臣  
召喚したサーヴァントの  
位置は？キヤスターなら  
ざまあみろ馬一鹿つて  
言つてやるからや。」

「やつきからなんだねん。  
金色の粉が邪魔だねん！」

時臣は待つてましたと  
言わんばかりに田を輝かせた

「我々が儀式により  
召喚をしたサーヴァントは  
古代最古の王だ。  
我々の勝利だ！  
そして位はアーチャーだ  
残念だつたな。」

「当たつたやん！  
やつたわーー（^—^）／

「惜しかつたぬーん

「馬鹿臣の癖に

光は、悔しそう

夏は、此れから始まる  
説教に

春日は、当たつた嬉しさで  
色々な反応をしていたが  
3人は一斉に固まる」とと  
なる。

「早速仕事だ。

英雄王の世話を頼みたい  
退屈させないようにな」

「「「え 嫌」」

「ならば説教だ。今回は  
綺礼からのだな。」

「「「丁重にお預かりする」」

かくして、3人は無事  
英雄王の世話をすることと  
なった。

(この我が空氣だと )  
(申し訳御座いません、  
英雄王) グリグリ  
(痛い、こめかみ痛いつ !)  
(あほ臣、痛いぬーん ! !)  
(おもろいわ ! )



### 03 初めまして、英雄王！

心配だから偵察をしてくれ  
「我がマスターが  
言つていたから偵察を  
してい るのですが  
英雄王、ギルガメッシュに  
早速会つと

「 なんや、この金ピカ」

「私に言われても 困る」

「お兄さんが粉を  
撒き散らしていたんだねん」

会つてそうそう  
失礼な態度を取りました。  
彼女等は、  
逝きたいようです

ハサンの記録より抜粋

「 我は、古代最古の英雄、  
ギルガメッシュである。」

「 ギルガメッシュって  
デニッシュみたいな  
名前だねつ むぐうつ  
「

「黙つとき！死にたいんか  
逝きたいんか！？」

早速、馬鹿丸出し。  
オロオロしています。  
英雄王のツボに  
入つたようですね。  
爆笑しています。

「貴様等のような雑種  
実に我の寵愛を ぶはつ」

腹を抱えて

笑いだした英雄王。

早速気に入つたようです。  
死なれなくて良かつたです

「そのメソポタミアって  
とこの王だつたぬん」

「その威圧感の意味が  
解つた気がしたわ」

「ふーん、長い名前だね」

「貴様等、面白い！  
名を呼ぶことを許そう」

「わーい、ギルギルだぬん」

「普通にギルガメッシュュやわ

「ギルガメッシュュって呼ぶ」

気に入られると  
早いのですね、ふむ。  
夏さんの馬鹿ぶりには  
英雄王も珍しいものを見る  
目付きでした。

「暇だからUNOで  
遊ぶねん！」

「ほお、偉いぞ雑種！」

「負けたらえげつない  
罰ゲーム付きやーー！」

「負けるものか！」

えげつない？

一体どんな罰ゲーム  
なのでしょうか？

恥ずかしながらハサンめは  
気になります。

「ギルギル、16枚カード

引くんだねん」

「折角1枚になったのに、

春日、夏、光！貴様等！」

「王様も弱いやん！ははは

「いけない、春日があがる」

「わせるか、雑種！」

白熱しているようです。  
あの英雄王もカードには  
弱いみたいですね。  
それにしても、ゲーム  
となるとあの3人は強い。

「ふはははは！勝つたぞ！」

「勝つたぬ〜ん！」

「春日、残念ね。」

「マジ無いわー！罰ゲーム  
なんやの！」

「間桐さん家の蟲が入った  
箱に手入れるねん」

「え！？」

「 残念だつたな春日。」

「 蟻に食われる。うえ。」

私も嫌です。

夏は、何を考えているのか  
解りません。

ある意味それ何処から  
仕入れたのですか？  
蟲藏にあるはずですが

（嫌や！）

（ぬんぬん）

ズボッ

（あ、あ、あ、！？）

（雑種の考えることは  
恐ろしい）

（夏は、馬鹿だけど  
ゲームは天才なんだ）

（ えげつないな）

（綺礼様、彼女が怖いです）

「買い物に行つてきて  
くれないか。」

この時田の一言から

立花 春日の一日は始まった

「実は、王が鍋が食べたい  
と言つてな、食材を  
買つてきて欲しいんだよ」

「何で、私だけやねん。  
夏や光もあるやんかー！」

「夏は部屋から出てこないし  
光に関しては嫌の一言でな」

「つまり、余った最後、か

「そう言つことだ。  
宜しく頼むよ。」

つてな訳でスーパーに  
いる訳だが  
何で、セイバー陣営が  
呑気に買い物してるん?

「アイリストフィール、

お肉が食べたいです！

後、この松坂牛、ヒレ肉に

卷之三

「あらあら、思へ貪へるわね  
セイバーったひー

「まだ、食べ足りません、  
戦に備えて もももも」

「セイバー！試食品は逃げていかないわよーー！」

なんか、平和やな。  
さて、肉も買わなあかんか  
嫌でも会つてまつわ  
んー、でもどないしょ

「もももももん！」

ちらちらと此方を見ますね  
まさか、」」のお肉をーー。」

「へ？！違う、違うんや！」

其処にあるお肉を一  
取りに行こうと思てなー！」

なんか、苦し紛れの言い訳  
みたいやな

相手は、騎士王やし  
私、死んだ、フラグ立つた

「あら、セイバー 私達  
邪魔だつたみたいよ？」

あれり？

「あ、失礼しました。  
此れですか？アメリカ産の  
198円のお肉。」

「あ、それやーうんうん、  
ありがとー！助かつたわ」「  
私の命も。

「さて、そろそろお会計ね  
お財布 あ。」

「どうしましたか、  
アイリスフイール？」

ん、何が起きたんやろ?  
乗り掛かつた船や、  
見に行こか。心配やし

「お財布忘れちゃつた、  
えへへへ」

「アイリスフイール！？」

我慢できなくつて。

「どうなにするん？」

「「あ。」「

「すみません、  
助かりました」

「本当に」「免なさいね  
いつか、返すわ！」

「ええんよ。馬鹿臣の  
お金やし！」

奢りました。

仕方無いじやないか。  
可哀想だつたんだもの  
しかも、道のりも一緒に  
私の方が近いみたいやけど

「本当にありがと」

「「」迷惑をかけました」

「いいんよ、あ 着いた」

時間がたつのは早いもの  
あつところ聞やつたもの。

「ほな、また～」

「またねー！」

「お金はこつか返します

また、会えると良いなあ  
うんう。

（アイリスフィール！）

（何、セイバー？）

（彼女が入つて行つた家

遠坂です！）

（え？！令呪無かつたわよ！？）

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2867ba/>

---

三人揃えば平気なの？

2012年1月8日21時53分発行